

# パネルディスカッション2 広げよう 小児一次救命処置

発表スライドの一部を  
公開しました

羽生総合病院  
小児科  
関島俊雄

**学術集会口頭発表時、申告すべきCOI状態がない時**

# **日本小児救急医学会 COI開示**

**筆頭発表者名： 関島 俊雄**

**日本小児救急医学会の定める利益相反に  
関する開示事項はありません。**

# こどもが学ぶ救命教育

- 誰でも学べるが、学習に適した年齢もある。
- 多くの人学ぶには、学校教育との連携が必要。
- 学習には、**動機づけ**が必要で  
**ASUKAモデルの活用** を

# 救命授業に関する教育は 学習指導要綱の改定で大きく強化されました

現学習指導要綱

小学生

具体的な規定なし

中学生

保健体育

応急手当には心肺蘇生などがあること  
について

理解を深める

AEDは

必要に応じて触れる

新学習指導要綱

小学生

規定なし

(平成29年改訂 令和2年完全実施)

中学生

(平成29年改訂 令和3年完全実施)

保健体育

心肺蘇生法などを行うこと

身に着けることが出来る  
ように指導する

胸骨圧迫、AED使用法などの心肺蘇生  
法になどについて

実習を通して出来るように  
する

# どのように小児心肺蘇生教育に取り組んできたか

埼玉県東部地区消防が中心となって開催された心肺蘇生大規模イベント（1回で数百人レベルの心肺蘇生講習会）の小児心肺蘇生担当として約15年前から約10年間活動した。



# 心肺蘇生教育 動機づけ

対象 フェスタに参加された、保育士さん  
や母親など・小児への心肺蘇生を  
**学びたい人**と**思ってる人**  
(すでに動機づけがある人)

なぜ**小児**を学びたかったか？

当時の**消防の講習**では、**成人のみが対象。**

(**小児は対象外**であった。)

平成23年(2011年)から普通救命講習Ⅲとして、小児を対象とする心肺蘇生法が学べるようになった。

# さいたま市での救命教育

- 平成23年9月 桐田明日香さん大変悲しい事故
- 平成24年9月 「ASUKAモデル」テキスト作成
- 同年 **全中学校**でAED実習を伴った  
心肺蘇生授業 開始
- 平成25年 **全中学・高等学校**で授業  
**モデル校 小学校**で授業 開始
- 平成26年1月 「ASUKAモデル」解説作成  
**全小・中・高等学校** 授業開始  
**父兄として授業に参加**
- 平成27年3月 「ASUKAモデル」DVD作成

# ASUKAモデルが示す さいたま市の 目指す児童・生徒像

中学校第1学年段階で、  
全ての生徒がAEDの  
使用を含む心肺蘇生法  
を行うことができる。



【心肺蘇生法実習の年間指導計画への位置付けと学習内容について】

校種・学年	関連する教科・領域、単元・実施時間	必ず取り扱う学習内容
小学校 第5学年	○体育科 G保健 (2) けがの防止 イ けがの手当 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">1 単位時間以上</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A E D の機能や設置場所等についての理解</li> <li>・ 緊急時の対応の仕方</li> <li>・ 胸骨圧迫の行い方</li> </ul>
小学校 第6学年	○体育科 G保健 (3) 病気の予防 オ 地域の様々な保健活動の取組 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">1 単位時間以上</div>	
中学校 第1学年	○保健体育科 (保健分野) (1) 「心身の機能の発達と心の健康」 ア 身体機能の発達 (器官の発育、機能の発達) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">1 単位時間以上</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A E D の使用を含む心肺蘇生法の行い方</li> </ul>
中学校 第2学年	○保健体育科 (保健分野) (3) 「傷害の防止」 エ 応急手当 (心肺蘇生等) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">学校の実態に応じて実施に努める。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前学年と同様</li> </ul>
中学校 第3学年	○保健体育科 (保健分野) (4) 健康な生活と疾病の予防 カ 個人の健康を守る社会の取組 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">学校の実態に応じて実施に努める。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前学年と同様</li> </ul>
高等学校 入学年次	○保健体育 (保健科目) (1) 「現代社会と健康」 オ 応急手当 (ウ) 心肺蘇生法 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">1 単位時間以上</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A E D の使用を含む心肺蘇生法の行い方</li> </ul>
その次の 年次以降	○保健体育 (保健科目) (2) 「生涯を通じる健康」 ウ 様々な保健活動や健康 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">学校の実態に応じて実施に努める。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前学年と同様</li> </ul>

繰り返し、学習することで、知識と技能の定着を図る。

# 埼玉県 他地域はどのようなの？

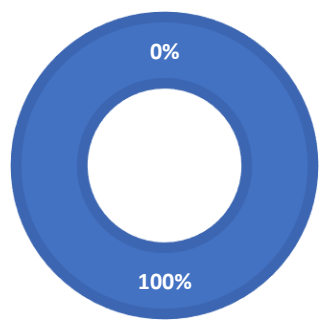
当時  
**ゼロ**



# 心肺蘇生授業実施率

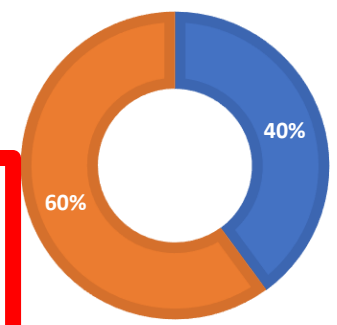
さいたま市 小学校

■ 1 ■ 2



さいたま市以外 小学校

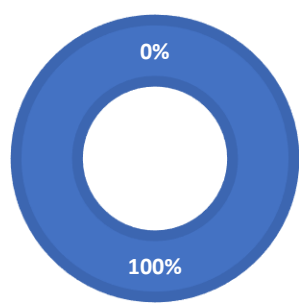
■ 1 ■ 2



少なくとも埼玉県  
100%の実施率に  
したい

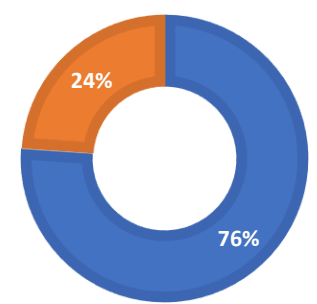
さいたま市 中学校

■ 1 ■ 2



さいたま市以外 中学校

■ 1 ■ 2



## 小学校からの教員による救命教育<各地の取組例>

	全校 実施 年度	学年	実施枠	指導 者	備考
さいたま市	H26 ～	5・6学年	体育	教員	H24・25モデル校
福岡市	H30 ～	5学年	体育	教員	H27までは消防 H28～消防+教員
上尾市	H30 ～	5または6 学年	学校設定 (体育 可)	教員	H29教職員研修
つくば市	H31 ～	4学年	つくばス タイル	教員	H30フォーラム 茨城PUSH支援
羽曳野市	H30 ～	「高学年」	総合、道 徳、理科、 保健	教員	保健主事会中心、ライ フサポートセンター支 援

○子どもに「責任」を求めない。「だれもが、みんなでやる」こと。

うまくできなくて当たり前。

○大切さと方法を知り、できることをやる。大人を手伝う。

- 大人を呼ぶ
- 119番通報をする
- AEDを取りに行く
- 胸骨圧迫を手伝う
- AED操作を手伝う など

○メンタルサポートを重視

※学校単位の実施や消防等の支援による取り組みは多数見られる。

# 救命教育での課題

- 1) 指導者
- 2) 資機材調達
- 3) 教材・カリキュラム

# 救命教育での課題

## 1) 指導者

自分たちが教えに行く  
教えられる人を養成する  
学校では初めて授業をする  
モデル校に協力する

2) 資機材調達

3) 教材・カリキュラム

# 救命教育での課題

1) 指導者

2) 資機材調達

もらう・寄贈を受ける

借用する

購入する

3) 教材・カリキュラム

# 人形・AEDトレーナーの 調達方法

寄贈	医師会から 教育委員会（教）へ ロータリークラブから（教）へ 個人・病院から（教）へ
借用	消防組織から 医療系大学から 蘇生講習を行うNPO団体から
購入	学校で



# 人形・トレーナーの借用状況 埼玉県内 一つの消防組合で

**KZ署** ○ 人形・AEDトレーナー（資機材のみ）  
貸出しOK。

**K署** ○ //

**S署** ○ //

**MY署** △ 状況に応じて一部貸し出している。

**S署** × 資機材のみの貸し出しは実施していない。  
消防職員がいかないとダメ。

**SG署** × //

# 救命教育での課題

1) 指導者

2) 資機材調達

3) 教材・カリキュラム  
既存のモノを借用  
オリジナルを作成

# 体育活動時等における 事故対応テキスト

～ASUKAモデル～

【心肺蘇生法実習の年間指導計画への位置付けと学習内容について】

校種・学年	関連する教科・領域、単元・実施時間	必ず取り扱う学習内容
小学校 第5学年	○体育科 G保健 (2) けがの防止 イ けがの手当 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 単位時 間以上</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AEDの機能や設置場所等についての理解</li> <li>・緊急時の対応の仕方</li> <li>・胸骨圧迫の行い方</li> </ul>
小学校 第6学年	○体育科 G保健 (3) 病気の予防 オ 地域の様々な保健活動の取組 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 単位時 間以上</span>	
中学校 第1学年	○保健体育科（保健分野） (1) 「心身の機能の発達と心の健康」 ア 身体機能の発達 (器官の発育、機能の発達) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 単位時 間以上</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AEDの使用を含む心肺蘇生法の行い方</li> </ul>
中学校 第2学年	○保健体育科（保健分野） (3) 「傷害の防止」 エ 応急手当（心肺蘇生等） <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 2px;">学校の実態に応じ て実施に努める。</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年と同様</li> </ul>
中学校 第3学年	○保健体育科（保健分野） (4) 健康な生活と疾病の予防 カ 個人の健康を守る社会の取組 <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 2px;">学校の実態に応じ て実施に努める。</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年と同様</li> </ul>
高等学校 入学年次	○保健体育（保健科目） (1) 「現代社会と健康」 オ 応急手当（ウ）心肺蘇生法 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 単位時 間以上</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AEDの使用を含む心肺蘇生法の行い方</li> </ul>
その次の 年次以降	○保健体育（保健科目） (2) 「生涯を通じる健康」 ウ 様々な保健活動や健康 <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 2px;">学校の実態に応じ て実施に努める。</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年と同様</li> </ul>

繰り返し、学習することによって、知識と技能の定着を図る。

命を守る

しん ぱい そ せい エー イー ディー

# 心肺蘇生・AED

救急車がくる前に  
できること



到達目標	救命の連鎖について学び、命の大切さを理解する 心肺蘇生法を学び、救急車がくるまでに自分が出来ることに参加する			
終了時刻	時間	学習内容・活動	指導上の留意点	資器材
15分	15分 (ビデオ 8分強)	自分の大切な人を想像する その人の命に係わることが起こったら どうするか想像する 胸骨圧迫、AEDの使い方を学ぶ 救急車がくるまでにできることを学ぶ 年間の突然死数を知る	スライドで説明 DVDを見せる 命に関わるような大きな状況が発生 した時に、 どのような行動を取ればよいか学ぶ	コンピューター スクリーン スピーカー  AUSKAモデルDVD
23分	8分	一連の流れ デモンストレーション 胸骨圧迫のみの心肺蘇生で AEDも含む	指導員がデモンストレーション 指導員は自分のやることを声に出し て 説明しながら実習する	上半身人形 AEDトレーナー
26分	3分	実習 心肺蘇生手順を全員で確認する 安全の確認 人を呼ぶ AEDを持ってきてもらう 反応の確認 呼吸の確認	安全の確認 ～ 呼吸の確認まで	必要時 副読本を見ながら 手順を確認
27分	1分	移動	あらかじめ決めておいた人形に集ま る	あっぱくんライト 一人1体
28分	1分	胸骨圧迫をしてもらう	自分のやり方で押してみる	
30分	2分	正しい胸骨圧迫を再度指導する	腕を伸ばす・頭を振らない・肩が 両手の上ぐらいの位置に	指導員が人形で正しい 姿勢を訴える
37分	残り時間に 合わせて3-7 分	胸骨圧迫を行う (場合により 途中で交代する)	『強く・早く・絶え間なく・しっか り戻す』を 意識して押してもらう 人形が二人で1体の時は、途中で交 代する	メトロノーム あるいはスライドで ダイヤモンド
42分	5分	AEDを使用する	代表者にトレーナーで実演してもら う あっぱくんライトで実習する	AEDトレーナー
45分	3分	まとめ/片付け		

到達目標

救命の連鎖について学び、命の大切さを理解す  
心肺蘇生法を学び、救急車がくるまでに自分ができること

終了時刻

時間

学習内容・活動

指導上の留意

15分

15分  
(ビデオ  
8分  
2分)

**自分の大切な人を想像する  
その人の命に係わることが起  
こったらどうするか想像する**  
胸骨圧迫、AEDの使い方を学  
ぶ  
救急車がくるまでにできること

スライドで  
DVDを見せ

# 動機づけ



26分

3分

実習  
心肺蘇生手順を全員で確認する  
安全の確認  
人を呼ぶ AEDを持ってきてもらう

安全の確認 ～ 呼

# こどもが学ぶ救命教育

- 誰でも学べるが、学習に適した年齢もある。
- 多くの人学ぶには、学校教育との連携が必要。
- 学習には、**動機づけ**が必要で  
**ASUKAモデルの活用** を